



酒井はやみ 議員  
(日本共産党  
幕別町議員団)

**問** 認可保育所への入所を希望したにも関わらず、9人、12人と2年連続で待機児童が発生し、保護者から大きな失望と不安、なぜ解消できないのかとの声がある。子どもたちが安心して成長発達できる居場所が保障されないことであり、保護者にとっては仕事を続けられるのか、人生設計が大きく狂いかねない問題である。

待機児童となれば、多くのケースで女性が家庭での育児を強いられ、キャリアや収入が制限される。ジェンダー問題とも結び付いてくる。早期解消のために以下伺う。  
**(1)** 新年度の入所申請数と入所見込み数、待機児童数は。  
**(2)** 待機児童の解消に必要な保育士数と施設面積は。  
**(3)** 町の事業計画にある、保育の「量の見込み」は地域を細分化すべき。  
**(4)** 正職員の保育士を増やす考えは。  
**(5)** 保護者への丁寧な対応として保育所空き情報の公開などの改善は。  
**(6)** 保育料の上乗せ徴収を保護者に求めることはあるか。

**問** 待機児童を早期に解消し、すべての子どもも居場所確保を  
**答** 札内青葉保育園の建替えにより待機児童発生が緩和が期待される

**(7)** 豊かな幼児教育、保育のため国に十分な財源確保を求める考えは。

**町長** **(1)** 町内5か所の認可保育所の入所申請数566人に対し、入所児童数は546人、入所が決まっていない20人の内訳は、0歳児4人、1歳児8人、2歳児8人。この20人のうち、0歳児1人、1歳児1人、2歳児1人の合計3人が育児休業を延長、1歳児2人、2歳児1人の合計3人が事業所内保育所への入所を確認している。残りの0歳児3人、1歳児5人、2歳児6人の合計14人が待機児童になる見込みであり、今後は認可外保育所とも調整を図るなどして待機児童の解消に努めたい。

**(2)** 待機児童が発生している対象クラスでは、児童を安全に保育するため、国の基準の範囲内で各保育室の面積に対し収容できる児童数を最大限確保している。待機児童の解消は保育士の人数によるものではなく、施設面積による物理的な問題に起因している。

来年度の札内青葉保育園の建替えにより、入所定員を90人から120人と30人増加するとしている。特に待機児童が発生している0歳児で7人、1歳児で3人、2歳児で5人の計15人増となり待機児童発生が緩和が期待される。

**(3)** 幕別、札内、忠類の3つの市街地とそれらに隣接する農村部を含めたそれぞれの地域を事業計画の区域と定め、それぞれ計画期間内における量の見込みと確保方を示している。区域を細分化すればするほど区域内の定員が少なくなり入所調整が難しくなる。

**(4)** 幅広い保育人材の養成・確保に向けた支援策など、実効性のある対策を講じるよう北海道町村会を通じ国へ要請を行う。今後とも職員を含め保育士の確保に努めたい。

**(5)** 町ホームページにおいて、昨年9月から毎月、各認可保育所の年齢区分ごとの最新入所者数と入所状況を掲載し情報を提供している。

**(6)** 令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化により、0歳児から

2歳児はこれまでと同様に保育料、3歳児から5歳児は副食費のみの保護者負担となり、町内の認可保育所では、それ以外の保護者負担は求めている。  
**(7)** 無償化の実施に当たり初年度に要する経費は全額国費による負担とし、令和2年度以降の負担割合は、現行制度と同じく国が2分の1、北海道が4分の1、町が4分の1の負担割合である。この町負担分は、これまで同様に地方財政措置がなされている。  
 幼児教育・保育の無償化に当たっては、町ではこれまでも必要な地方財源を確保するよう全国町村会を通じ要請を行ってきた。



札内青葉保育園